



いわき探検記



2023年11月 Vol.21
地域おこし協力隊
辻村 春香

10月。まだ夏が残っていると感じつつ始まった月でしたが、一気に朝晩の気温が下がり、急激に秋が進んだひと月でした。

あっという間に岩木山の色彩も赤みがかり、「秋」を感じる暇もなく「冬の予兆」を感じる日々。毎年“異常気象”と言われてはいますが、もはや異常ではなく、毎年の変動が激しいのがこれからの常態となるのではないかと感じています。

企画・運営に携わっています!

居場所づくり “みんなの居場所ステップ44”

10月21日(土) 野原の素材で「ほうき」をつくってみよう

今回は野の草「ススキ」を使ってほうきづくりにチャレンジしました。

事前準備として、刈り取ったススキを干して穂を開き、綿毛を金属刷毛で取り除いて束にしたものを使用しました。イベント前日には、繊維の割れ防止と繊維を柔らかくするために12時間ほど材料を水に浸けておき、本番に臨みました。

今回の参加者は3名。岩木の方2名と、飛び入りで私の友人が1名(岩木地区外)。作業中、おしゃべりしていたら、岩木の五代町会・葛原町会からの参加者は実はお知り合いということがわかり。お互い「なんかどこかで会ったような…?」としばらく手探り状態でしたが、途中から話がかみ合い始め、「あれ、やっぱり!」とマスクを外してお互いの顔を確認、数年ぶりの再会を祝ってらっしゃいました。

人の縁って、わからないものですね。期せずして、お2人の再会の機会を作ることができてよかったです。

さて、ススキ。「ほうきに使えるの?」と思っていたけれどこれは…!という声あり。

みんなでワイワイ騒ぎながら、何とかほうきを作り終えました。



後片付けの際には、集会所のほうきは使わず、自分たちでつくったほうきでお掃除しました。早速お役立ち♪

次回予告

12月 リースを作ろう!

昨年に引き続き、リースづくりをしようと思います。

岩木地区の友人を講師に招き、材料も一部ご提供いただきながら実施したいと思います!

日時: **日程調整中!**

場所: 五代多目的集会所 弘前市五代字沼田137

参加費: **未定** (保険料、材料費等)

人数: 10名程度【先着順】

※ 小学生以下のお子さん参加の場合には、保護者同伴
持ち物: はさみ。自分でリースに飾り付けたいもの等。

詳細未定

詳細が決まりましたら、別途チラシ等でお知らせいたします!

問合せ 岩木総合支所 総務課 辻村

☎ 090-7790-9925 (平日9時~16時)



10月10日 岩木山フォトコンテスト 展示終了

岩木山観光協会が実施する岩木山フォトコンテスト。
今年も宮地の農業生産法人 ANEKKO を会場として、応募作品の展示がおこなわれました。
審査員は、観光協会の会員。審査日にそれぞれの感性で選んだ5作品に1票ずつ入れ、それを集計して上位から賞が決まっています。今年の写真もいい写真ばかり。
岩木山を含む風景写真がほとんどですが、どの時間帯で撮るか、また、光の加減がどうか等、いろいろな条件で撮影したものが集まるので、表情も一つではありません。
そして、みなさんの岩木愛、岩木山への愛かもしれませんが、郷土愛を感じます。



フォトコンテストは終了しましたが、優秀作品は11月後半から販売が開始される来年のカレンダー・年賀状として見ることができます。ご興味のある方は、11月25～26日に中央公民館岩木館・岩木文化センターあそべるで実施される岩木文化祭に足をお運びください！

10月22日 岩木山エコプロジェクト2023に参加しました

この3年、年2回実施（おもに7月・10月実施）のところ1回ずつしか参加できていない「岩木山ECOプロジェクト」。
岩木山観光協会が実施するボランティアのごみ拾いイベントで、10年以上の歴史があります。もちろん、私も業務外での参加です。
毎年6月ころには、このイベントの資金として、エコプロジェクトTシャツ・ポロシャツの販売もしております。

今回のイベント参加で、2年ぶりの再会を果たしました。岩木にきた2021年の夏に初めてお会いした小学校の先生で、合気道をしている知人に誘われて、合気道体験をしに行ったときにお会いした方でした。同じ岩木地区に暮らしていても、なかなか接点がなく、お会いできていなかったこの2年。
ごみ拾いをしながら、楽しくお話をさせていただきました。

しかし終盤、参加者の拾い集めた袋のごみの量をお互いに見合い、「まだまだマナーがない人が多い」とみんなのため息をついてしまうのでした…。



10月中旬 稲刈りに参加（田んぼ＝葛原・宮地地区）

日ごろお世話になっている農家さんの稲刈りがあり、参加してきました。
昨年までは、稲刈り機&棒掛けで人を集めておこなってましたが、今年はコンバイン導入で、人員を見直し、農家さんご自身と、一緒に田んぼづくりしている女性1人で実施予定と聞きました。9月に一町田で知人のコンバイン稲刈りを見学した私はその時のようすを思い出し、茶々を入れ…。「田んぼ面積が相当あるので、コンバイン1名、トラック操作1名、隅4つ角手刈り1名は必要では？」という話になり、手刈り要員として稲刈りに参加することになりました。
結果、稲刈り前日に激しい雨が降り、田んぼ排水がうまくいっていないところが発見され、当初は女性2人で駆けずり回り、そのうち助っ人も加わり。途中、雨天もあって中断したそうですが、何とか数日間で稲刈りを終了したと連絡がありました。

毎年ハプニングが発生している&天候とのにらみ合い。
今後の私の畑作業にも、「なに事も余裕を持った計画が必要」と学びになった稲刈りでした。



10月24日確認 からむし（葛原地区）の成長観察

7月下旬～8月初旬にかけて刈り取りと繊維取実験を実施した葛原地区のからむし。

文献には「年に2回収獲することもある」と記載されていたことから、成長を確認しに、葛原地区のからむしの自生地に行ってきました。約3か月での成長は1m10cmに満たない状況。

茎を見ても、たくさんの枝葉が出ているので、もしかしたら繊維には適さないかも。

このからむしからの繊維取りを実施するかどうか判断をしかねていましたが、知人からからむし使用の相談があり、手元のからむし繊維だけでは不足する可能性が出てきたことから、秋の繊維取実験を11月中におこなうことにしました。

基本的な収穫時期は7月初旬～ということなので、来年の7月初旬に、早めに刈り取り・繊維取実験を実施したいと考えております。それで、秋の成長がどうなるのか、今年との状況と比較したいと考えています。



10月初旬 ^{ほうき}南部箒づくり ワークショップに参加しました

今年、一町田でお借りしている畑で栽培したホウキモロコシ。興味本位で育てたものの、「これをどうやって箒にすればいいの?」とモヤモヤしていた9月に、岩手県北部で箒づくりのワークショップの情報をゲット。休日に参加してきました。

津軽箒の作り方と原理は同じようで、出来上がりの姿はそっくりに。もともとと同じ植物でつくられた箒であることと、生活の中で必要とされてできたものであるだけに構造や形が近いのは当たり前なのかもしれませんが…。

箒づくりの先生が育てたホウキモロコシを、ワークショップを実施する団体のメンバーと、外部参加者の分を下準備していただき、約半日で1本の箒をつくるワークショップでした。

先生には、箒づくりだけでなく、ホウキモロコシの栽培のポイントも教えていただいたので、来年はそれを実践して、栽培をおこないたいと思います。



大きい箒を習ってきました。
和室掃除用に、和室に下げています。

機織り機（地機）譲っていただきました

前回の「いわき探検記」で譲っている方を探していたところ。もとは裂織をされていた方から、「もう織るのはしばらく休んでいて。織り機をどう処分しようかと思っていたら、記事が目に入って」ということで、ご連絡くださいました。裂織で使用されていた材料も譲っていただいたので、糸と糸で布を織るよりもシンプルな裂織で経験を積みたいと思います。

地機（じばた）といわれるタイプの織り機で、10月中に、私の岩木地区の定住拠点・宮地基地にお引越し完了です。

昨年から少しずつ取り組んでいる麻やからむしの糸づくり。糸だけつくっても、目標がないと途中で止まってしまうので、布を織ることを目標として、機（はた）を探していました。私と同様、友人も同じく機（はた）を探しており、「切磋琢磨しながら布づくりが実現できたらな～」と考えております。



暫定的に、和室に於いています。
これから機織りを習っていきます。

回転式脱穀機 譲っていただきました

脱穀機のお掃除
ビフォー・アフター。

こちら先月の「いわき探検記」で募集した脱穀機。ご連絡をいただき、拝見に伺い、その日のうちに譲っていただきました。お電話くださった方とお会いした時「古いもの、集めているの？」と尋ねられまして、「古いものというか、自分のやっていることに必要なものを探しています。」とお答えしたら、少し驚いてらっしゃいました。そうですね。イマドキ、脱穀機を探す人なんて珍しいですね。



錆だと思っていたら

探し始める契機となったのは、前述の箒づくりの先生のお話を伺ったことでした。ホウキモロコシを、ススキと同様、金属の刷毛で種子を取り除こうとしましたが、うまくいかず。先生に質問したところ「昔の回転式の脱穀機が一番」というお言葉を受け、探し始めました。



歯が見えてきた

私は畑でダイズ・ハトムギ・ホウキモロコシを育てていて、昨年よりも脱穀すべきものが増え、ひと冬かけて手で脱穀作業をするか恐怖心を抱いていました。それら全てを解決するのが脱穀機という結論に達しました。

いただいた脱穀機は、10月末にお手入れし、泥を落としたり、歯車もかけることなく残っており、足踏みの部分の不具合を直せば使える状態。11月には応急処置の方法を探して、使いたいと思います。



この部分のお掃除

よいものを譲っていただき、ありがとうございました。

◆◇ 編集後記 ◇◇

あつという間に秋が過ぎ、枯れ葉舞い散る頃となりました。私事としても、畑の収穫物のあと作業（主に豆類、ハトムギ等）に終われる日々。そして、干し柿作成のシーズンと、“冬支度”が佳境となってまいりました。これからどんどん寒くなり、日も短くなります。特に農家の皆さま、無理せず安全に作業をし、一日の終わりにはご自身をいたわってくださいませ。



衣生活に関わる民具を探しています。

衣生活に関わる民具を探しています。現在、糸績みの講座を外部講師をお招きして開催しています。そこで「地元の衣服に関する民具」がなくなりつつあることがわかりました。カラムシや麻の繊維をとるのに使った道具や、糸車、紡錘車など、衣服に関する民具を探しています。



いずれも、情報いただけましたら、状態の確認に伺わせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先
岩木総合支所 総務課

もろもろ情報
お待ちしております！

地域おこし協力隊 辻村まで

Tel: 0172-82-1621
Mail: har-t Sujimura@city.hirosaki.lg.jp



「いわき探検記」の直近のバックナンバーは、市のホームページからご覧になれます。古いものは、岩木庁舎でファイルしております。ご覧になりたい方は、岩木庁舎まで。